

平成29年度（H29シカ年度）エゾシカ捕獲事業案（隣接地域）

1 経緯と方針

- ・北海道森林管理局では、H25シカ年度から遺産地域に隣接するウトロ地区～真鯉地区での捕獲事業等を開始。H29シカ年度は春苺地区での捕獲を予定。
- ・希少猛禽類が高密度に生息していることから、捕獲方法は当面囲いわなを主体とし、積雪期にエゾシカの集結する海岸沿いに約1km間隔で囲いわな等を配置することをイメージ。
- ・地形条件等のために囲いわな設置が難しい箇所においては、銃を用いた捕獲をH26シカ年度から工夫しながら試行。
- ・北海道森林管理局発注事業だけでなく、民間活力を利用した三者協定による囲いわな捕獲（斜里町、網走南部森林管理署、エゾシカファーム）に加え、新たに箱わな捕獲を実施。

2 H29シカ年度捕獲事業等の内容

(1) 囲いわな

①新設1箇所

森林管理局発注事業：春苺古丹（12月までに設置） 目標30頭

②既存わな（12月下旬～3月中旬）

森林管理局発注事業：ウトロ東 目標20頭

ウトロキャンプ場 目標20頭

弁財崎 目標30頭

オシンコシン崎1 目標20頭

オシンコシン崎2 目標20頭

マコイ沢 目標10頭

三者協定： 三段滝他 (30)

(2) 箱わな

①新設は複数個で実施を予定

森林管理局発注事業：春苺古丹（12月までに設置） 目標20頭

②既存わな（12月下旬～3月中旬）

森林管理局発注事業：金山川（3個設置） 目標20頭

- ・遺産隣接地域は可猟区又は可猟区と接している地域であり、過去の捕獲事業からも警戒心が非常に強い個体群が対象となる。また、H28シカ年度に見られたように小雪等の自然条件にも捕獲数が左右される。

- ・誘引に十分な時間をかけるとともに、捕獲の効果を高めるため誘因効果が発揮される期間に捕獲期間を設定し、囲いわなまで誘因できない個体群は箱わなを設置して捕獲効果が上がるように検討（森林管理局発注事業等）。

- ・遠音別や真鯉地区の国道沿い等で3～4月にかけて三者協定による箱わな捕獲を実施。 (20)

- ・可猟区内に設置した真鯉沢や金山川については、可猟期間中（3月）から誘引を行う等の対応を検討し、箱わなの増設も検討。

③箱わな（12月下旬～3月中旬）

森林管理局発注事業：（3個設置） 目標20頭

【囲いわな設置数の推移】

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
ウトロ地区	1 (1)	2 (1)	3 (1)	4 (1)	3 (1)
遠音別地区		1	2	2	2
真鯉地区		1	1	1	1
春苧古丹地区					1

(注：カッコ内は三者協定によるもので外数)

(3) 銃猟

- ①モバイルカリング (3月中旬から2回を予定) 目標10頭
森林管理局発注事業：オペケプ林道等
- ②遠距離狙撃 (3月から2回を予定)。
森林管理局発注事業：オペケプ林道入口で実施予定。
(H28：2.3km → H29：2.3km) なお、誘引期間の確保と誘因方法の改善が課題。

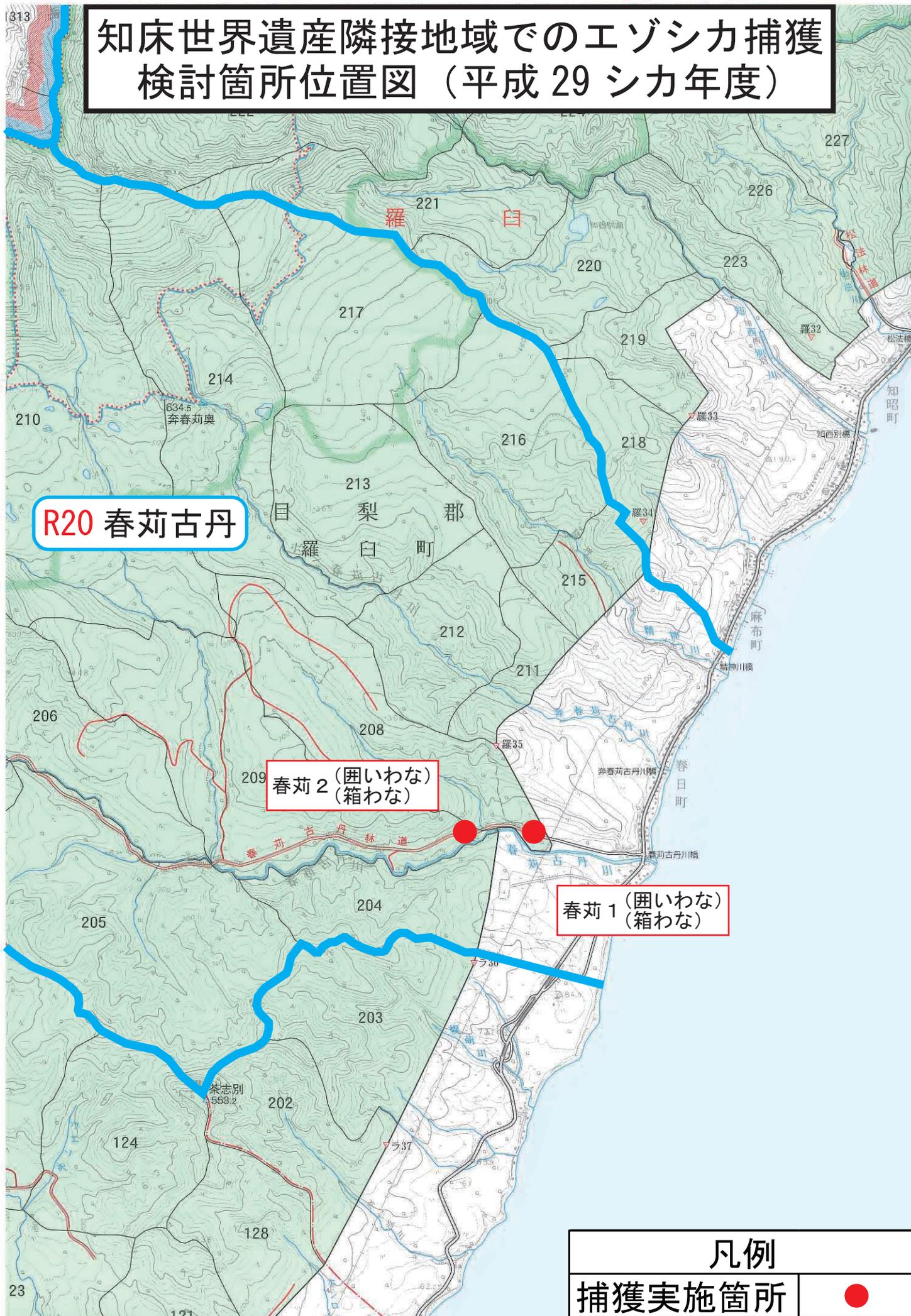
※地区別捕獲目標 (三者協定による捕獲頭数は含まない)

- ・ウトロ地区 70頭
- ・遠音別地区 40頭
- ・真鯉地区 40頭
- ・春苧地区 50頭

3 可猟区における捕獲事業について

オペケプ林道周辺でのモバイルカリングや遠距離射撃、真鯉沢の囲いわなや金山川での箱わなによる捕獲を実施予定。

知床世界遺産隣接地域でのエゾシカ捕獲 検討箇所位置図（平成 29 シカ年度）



R20 春苺古丹

春苺 2 (囲いわな)
(箱わな)

春苺 1 (囲いわな)
(箱わな)

凡例
捕獲実施箇所 ●